

# 入学者選抜改革と学習指導要領の改訂が高校生に与える影響

立脇 洋介 (九州大学)

入学者選抜改革ならびに学習指導要領の改訂が高校生の学習行動や入学者選抜への考えに与える影響を検討するため、2021年と2025年の入学者選抜の対象となる高校生が1年生の時に調査を実施した。その結果、以下の三点が明らかになった。第一に、入学者選抜の変更に関して知っている人の割合は、2019年が8割以上であったのに対し、2023年は半数程度と大きく減少していた。第二に、学習時間に関しては、高校の特徴にかかわらず、2019年と2023年で大きな違いが見られなかった。第三に、入学者選抜で重視されていたものもほとんど変化しておらず、「教科試験」、次いで「面接」「調査書」「志望理由書」であった。以上の結果から、少なくとも高校1年生にとっては、入学者選抜改革や学習指導要領の改訂は学習行動や入学者選抜への考えにあまり影響していないと推測される。

キーワード：学習指導要領, 2021年度入学者選抜, 2025年度入学者選抜, 入学者選抜改革

## 1 はじめに

### 1.1 高大接続改革

2021年1月から大学センター試験に代わり、大学入学共通テスト（以下共通テストと表記）が開始された。

共通テストは、中央教育審議会答申（中央教育審議会、2014）や高大接続システム改革会議「最終報告」（高大接続システム改革会議、2016）での議論を経て、「高大接続改革」の一環として導入された。これらの議論では、知識基盤社会やグローバル化に対応した能力への転換と、高校生や大学生の学力の低下という課題が指摘されていた。当初の計画では、共通テスト開始時に、先行して記述式問題や思考力をより重視した問題を出題し、2022年度から実施される学習指導要領下で学んだ高校生が受ける2025年度の共通テストからさらなる変更をする予定であった。しかし、試験実施上の課題から記述式問題ならびに英語民間試験の活用が見送られたため、現時点では比較的小規模な出題内容の変更にとどまっている。ただし、2025年度の共通テストでは、新教科「情報」が追加される。さらに、学習指導要領の改訂に伴い、高校生が学ぶ内容が変更されるため、出題内容もかなり変更されることになる。

高大接続システム改革会議「最終報告」では、個別大学の入学者選抜についても、アドミッションポリシーに基づき「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入学者選抜への改善を求めている。特に学力の3要素のうち、共通テストで評価が困難な「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を、調査書や志望理由書、面接などによって評価する必要性が指摘

されている。

### 1.2 入学者選抜と高校生の学習行動

高大接続改革の背景には、育成する能力の転換と学力低下問題があった。つまり、入学者選抜改革や学習指導要領の変更を通して、これまでとは異なる能力を育成し、学力を向上させることをねらっていた。

しかし、入学者選抜が高校生の学習行動に与える影響は非常に複雑であることが指摘されている。山村ほか（2019）は、首都圏の進学校と進学中堅校を対象にした3年間のパネル調査によって高校生の学習行動の規定要因を明らかにしている。受験直前の学習行動を最も規定していたのは、高校1年生時の学習時間であった。入学者選抜の影響を見ると、AO入試を志向するほど、学習時間が少なく、指定校推薦を志向するほど、テスト前の学習時間が多かった。しかし、いずれも高校1年生時の学習時間に比べると影響が少なく、限定的であった。ただし、山村ほか（2019）の研究は高大接続改革前に実施されており、今回の一連の改革が、高校生にどのような影響を与えるかは明らかにされていない。

また、高校生を対象とした研究ではないが、倉元ほか（2023）は、高校を対象とし、新しい学習指導要領のうち「情報」に注目し、入学者選抜に関する調査を行っている。その結果、9割以上の高校が共通テスト「情報」に関する知識を有した。さらに、生徒や高校の負担、担当する教員不足、地域間格差などの理由から2/3の高校が情報を全国立大学で課す案に反対していた。

### 1.3 本研究の目的

本研究の目的は、高大接続改革の一環として行われ

た、入学者選抜改革ならびに学習指導要領の改訂が高校生の学習行動や入学者選抜に対する考えに与える影響を検討することである。具体的には、2021年入学者選抜と2025年入学者選抜の対象となる高校生が1年生の時に調査を実施し、学習時間や入学者選抜で用いられる各種評価の重要度等を比較する。この際、進学校と進学中堅校（山村ほか, 2019）や地域間格差（倉元ほか, 2023）など、高校の特徴に注目した分析も行う。

## 2 方法

### 2.1 調査手続き

調査会社に登録されたモニターを利用する公募型Web調査を行った。個人情報および倫理面に配慮し、参加者本人が同意した場合のみ、調査に参加してもらった。まずスクリーニング調査によって、大学進学を希望する高校1、2年生を抽出した。条件に合致した人に本調査の依頼を行い、学年と性別を組み合わせた4群、それぞれ100人を目途とし、回答の募集を行った。参加者には調査会社から謝礼としてポイントが支払われた。

### 2.2 調査時期と分析対象

調査は2019年3月と2023年3月に実施した。本報告では、1年生のデータのみを分析対象とした。最終的に2019年206人（男性103人、女性103人）、2023年206人（男性103人、女性103人）の有効回答を得た（男性206人、女性206人）。

### 2.3 分析項目

#### 2.3.1 高校の情報

通っている高校の「設置者」「課程」「学科」について尋ねた。さらに、高校の特徴に関して、「地方の高校」「進学校」「中高一貫校」などから該当するものを全て選択してもらった。

#### 2.3.2 学習時間

自宅や図書館や塾など、学校の授業以外での学習時間を尋ねた。「テスト期間中ではない平日（ふだん）」「テスト期間中」のそれぞれについて、「まったくしない＝0」「1時間ぐらい＝1」「2時間ぐらい＝2」「3時間ぐらい＝3」「4時間ぐらい＝4」「5時間ぐらい＝5」「6時間以上＝6」から単一回答形式で回答を求めた。

#### 2.3.3 入学者選抜変更に関する理解度

入学者選抜変更に関する情報を知っている程度に関

して、「2020年（2024年）4月以降、大学入試が変わります。具体的に何がかわるか、知っていますか。」と尋ねた。回答は「まったく知らない（＝1）」から「よく知っている（＝4）」の4件法で求めた。

### 2.3.4 入学者選抜での評価の重要度

入学者選抜で評価される内容を12項目設定し、「大学入試において次の内容が評価されることは重要だと思いますか。それぞれ当てはまると思うものをお選びください。」と尋ねた。12項目は、「教科の試験」「小論文」「面接」「内申書・調査書」「その学校を志望した理由」「英語の民間試験」「高校の探究活動などの授業の成果」「高校での生徒会や委員会の活動」「高校での行事の取り組み」「部活動やコンクールの結果」「英語以外の資格や検定」「ボランティアなどの社会活動」である。回答は「まったく重要でない（＝1）」から「非常に重要である（＝4）」の4件法で求めた。

## 3 結果

### 3.1 2019年と2023年の比較

まず2019年と2023年の比較を行った。入学者選抜変更に関する理解度に関して、「少し知っている」「よく知っている」と回答した人は、2019年では8割以上であったのに対し、2023年は半数程度と大きく減少していた（図1）。

学習時間（表1）に関しては、2019年と2023年で大きな違いが見られなかった。ふだんは、学習を「まったくしない」人が3割、「1時間くらい」する人が4割、「2、3時間」する人が3割であった。普段に比べるとテスト期間では学習時間が大幅に増加し、「まったくしない」人は1割未満であり、「1、2時間」する人が3割前後、「3、4時間」する人が半数程度、「5時間以上」する人が1割であった。

入学者選抜での評価の重要度（表2）も、2019年と2023年で大きな違いが見られなかった。最も重視されていたのは「教科試験」であり、9割以上の人が「やや重要」「非常に重要」と回答していた。次いで、「面接」「調査書」「志望理由書」で8割の人が重要と回答していた。「部活動」は、他の資料に比べると重要と回答している人が少なかった。

### 3.2 高校の特徴と年度比較

高校の特徴と調査年を独立変数、「入学者選抜変更に関する理解度」「学習時間」「入学者選抜での評価の重要度」を従属変数とする二要因の分散分析を実施した。高校の特徴は、「地方の高校」「進学校」の2つを

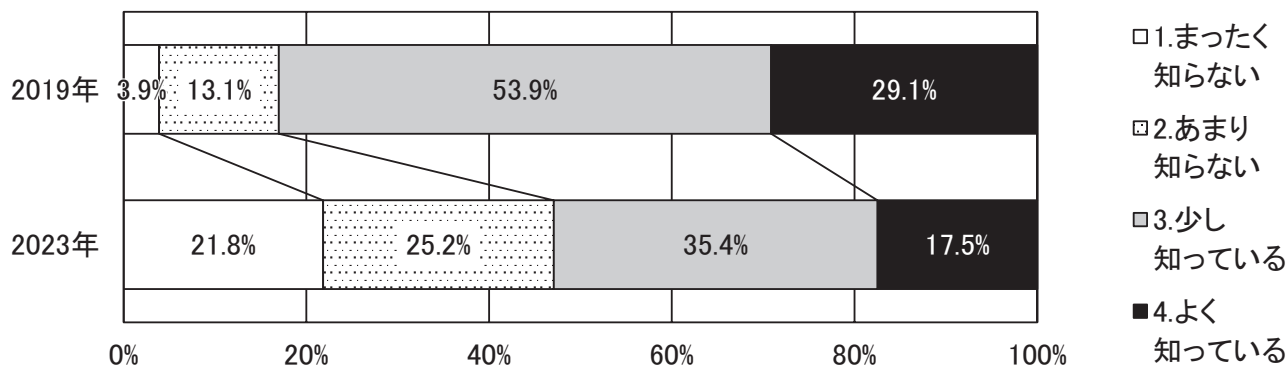


図1 入学者選抜の変更に関する理解度の年度比較

表1 学習時間の年度比較

調査年	0. まったくしない	1.1時間ぐらい	2.2時間ぐらい	3.3時間ぐらい	4.4時間ぐらい	5.5時間ぐらい	6.6時間以上	平均値	
ふだん	2019年	31.1%	37.4%	18.9%	11.2%	0.0%	1.0%	0.5%	1.17
	2023年	30.1%	38.3%	23.3%	4.9%	1.9%	0.5%	1.0%	1.16
テスト期間	2019年	6.8%	9.7%	16.5%	26.7%	21.4%	10.2%	8.7%	3.12
	2023年	5.3%	12.6%	21.4%	27.7%	19.9%	7.8%	5.3%	2.89

表2 入学者選抜での評価の重要度の年度比較

調査年	1. まったく重要でない	2. あまり重要でない	3. やや重要である	4. 非常に重要である	平均値	
教科試験	2019年	0.5%	7.8%	42.2%	49.5%	3.41
	2023年	2.9%	4.9%	35.9%	56.3%	3.46
小論文	2019年	3.4%	25.2%	42.7%	28.6%	2.97
	2023年	3.4%	19.4%	44.7%	32.5%	3.06
面接	2019年	4.4%	14.6%	44.7%	36.4%	3.13
	2023年	1.5%	15.5%	40.8%	42.2%	3.24
調査書	2019年	2.9%	17.0%	37.4%	42.7%	3.20
	2023年	4.9%	10.7%	40.3%	44.2%	3.24
志望理由	2019年	1.5%	12.1%	43.7%	42.7%	3.28
	2023年	1.9%	14.1%	33.5%	50.5%	3.33
英語民間	2019年	4.9%	21.8%	41.7%	31.6%	3.00
	2023年	5.3%	20.9%	45.1%	28.6%	2.97
探究活動	2019年	6.3%	16.0%	48.1%	29.6%	3.01
	2023年	5.8%	19.4%	41.3%	33.5%	3.02
生徒会	2019年	6.3%	23.8%	41.7%	28.2%	2.92
	2023年	7.3%	27.7%	42.2%	22.8%	2.81
行事	2019年	3.4%	20.4%	44.2%	32.0%	3.05
	2023年	5.3%	24.8%	40.8%	29.1%	2.94
部活動	2019年	8.3%	26.7%	45.6%	19.4%	2.76
	2023年	8.3%	28.2%	44.7%	18.9%	2.74
資格	2019年	2.4%	18.0%	42.7%	36.9%	3.14
	2023年	2.9%	17.0%	46.6%	33.5%	3.11
ボランティア	2019年	2.4%	22.8%	46.6%	28.2%	3.00
	2023年	3.9%	25.7%	46.1%	24.3%	2.91

表3 高校の特徴と年度比較① 地方の高校<sup>1)</sup>

調査年	地方高校		非地方高校		分散分析の結果 (F(1,408))		
	2019年	2023年	2019年	2023年	調査年	高校	交互作用
N	76	107	130	99			
入試変更	2.93	2.45	3.17	2.53	39.38 **	3.00	0.77
ふだん	1.05	1.24	1.23	1.06	0.01	0.00	2.69
テスト期間	2.91	2.99	3.24	2.78	1.49	0.15	3.09
教科試験	3.34	3.51	3.45	3.39	0.75	0.01	2.63
小論文	2.84	3.19	3.04	2.93	2.10	0.14	7.80 **
面接	3.21	3.36	3.08	3.11	1.17	5.48 *	0.56
調査書	3.18	3.28	3.21	3.19	0.23	0.15	0.45
志望理由	3.24	3.34	3.30	3.31	0.55	0.07	0.32
英語民間	3.01	3.04	2.99	2.90	0.16	0.87	0.47
探究活動	2.97	3.05	3.03	3.00	0.06	0.00	0.36
生徒会	2.97	2.86	2.88	2.75	2.04	1.31	0.02
行事	2.99	2.90	3.08	2.98	1.33	1.14	0.01
部活動	2.72	2.83	2.78	2.65	0.03	0.52	2.04
資格	3.11	3.17	3.16	3.04	0.14	0.20	1.35
ボランティア	2.99	2.99	3.02	2.82	1.48	0.82	1.59

表4 高校の特徴と年度比較② 進学校

調査年	進学校		非進学校		分散分析の結果 (F(1,408))		
	2019	2023	2019	2023	調査年	高校	交互作用
N	105	88	101	118			
入試変更	3.27	2.72	2.89	2.31	41.91 **	19.92 **	0.02
ふだん	1.27	1.20	1.06	1.12	0.00	1.82	0.31
テスト期間	3.38	3.20	2.84	2.65	1.47	13.09 **	0.00
教科試験	3.46	3.45	3.36	3.46	0.52	0.51	0.58
小論文	3.03	3.05	2.90	3.08	1.41	0.36	0.96
面接	3.05	3.12	3.22	3.32	1.35	5.53 *	0.03
調査書	3.19	3.08	3.21	3.36	0.05	3.25	2.52
志望理由	3.30	3.31	3.26	3.34	0.38	0.00	0.22
英語民間	3.04	2.94	2.96	2.99	0.14	0.03	0.56
探究活動	3.00	3.03	3.02	3.02	0.03	0.00	0.05
生徒会	2.88	2.67	2.96	2.91	2.25	3.44	0.77
行事	3.10	2.93	2.99	2.94	1.78	0.40	0.55
部活動	2.77	2.56	2.75	2.88	0.26	3.26	4.12 *
資格	3.18	3.02	3.10	3.17	0.32	0.17	2.15
ボランティア	3.04	2.81	2.97	2.98	1.94	0.48	2.41

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

用いた。

地方の高校の分析結果を表3に示す。入学者選抜変更に関する理解度では、調査年の主効果が有意であり、2023年に比べて2019年の方が入学者選抜の変更をよく知っていた。学習時間では有意な差が見られなかった。入学者選抜での重要度に関して、「小論文」で交互作用が有意であった。単純主効果検定を行ったところ、地方の高校でのみ2019年に比べて2023年の方が重要と考えていた。また、「面接」で高校の効果が有意であり、地方でない高校に比べて地方の高校の方が、面接を重要と考えていた。

進学校の分析結果を表4に示す。入学者選抜変更に関する理解度では、調査年と高校の主効果が有意であった。2023年に比べて2019年の方が、進学校以外に比べて進学校の方が、入学者選抜の変更をよく知っていた。テスト期間の学習時間では、高校の主効果が有意であり、進学校以外に比べて進学校の方が、学習時間が長かった。入学者選抜での重要度に関して、「面接」で学校の効果が有意であり、進学校に比べて進学校以外の高校の方が重要と考えていた。「部活動」で交互作用が有意であったものの、単純主効果検定で有意な差が見られなかった。

#### 4 考察

2019年調査と2023年調査を比較した結果、最も大きな違いは、入学者選抜変更に関する理解度であった。共通テストでの記述式問題や英語民間試験の活用など、2019年調査時点では、非常に大きな入学者選抜の変更が実施される予定であったため、社会的な関心も高かった。その結果、高校1年生でも、入学者選抜の変更について知っている人が大半であったと推測される。2023年調査では半数程度の人しか知らないものの、多くの大学で教科・科目選択など受験資格に関わる変更も行われる。大学側は、これまで以上に積極的な情報を発信していく必要があると考えられる。

学習時間に関しては、高校の特徴、ふだん・テスト期間にかかわらず、2019年と2023年でほとんど違いが見られなかった。高校1年生のみの結果であるが、入学者選抜改革によって学習時間が変化したという結果は見られなかった。入学者選抜が学習時間に与える影響は限定的であるという山村ほか(2019)の知見と一致している。

入学者選抜で最も重視されていたのは、高校の特徴や調査年にかかわらず「教科試験」であった。面接は高校の特徴によって異なっており、「地方の高校」「進学校以外の高校」でより重要と考えられていた。これらの高校では、面接を活用する総合型選抜、学校推薦型選抜を志望する高校生が多いと推測される。ただし、学習時間と同様に、調査年の影響はほとんど見られなかった。

今後受験の準備が進む2年生以降でどのような影響があるのか検討していくことが必要である。

#### 注

1) 地方高校と非地方高校の地方区分を確認したところ、地方高校は関東地方20.4%、中部地方27.9%、近畿地方17.2%、その他34.6%、非地方高校は関東地方44.6%、中部地方13.3%、近畿地方20.2%、その他22.0%であった。

#### 謝辞

本研究はJSPS科研費JP 20K02942の助成による研究成果の一環である。

#### 参考文献

中央教育審議会(2014)。「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」文部科学省 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/)

afildfile/2015/01/14/1354191.pdf (2023年8月31日)

高大接続システム改革会議(2016)。「高大接続システム改革会議「最終報告」文部科学省 [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afildfile/2016/06/02/1369232\\_01\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afildfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf) (2023年8月31日)。

倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・長濱裕幸(2023)。「新学習指導要領の下での大学入試—高校調査から見えてきた課題—」『大学入試研究ジャーナル』, 33, 26-32。

山村滋・濱中淳子・立脇洋介(2019)。「大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか—首都圏10校パネル調査による実証分析」ミネルヴァ書房。